



2023年3月期 第1四半期決算説明
(2022年4月1日～2022年6月30日)

株式会社スクロール
証券コード：8005（東証プライム）

ハイライト【連結】

- 売上高は、成長事業であるソリューション事業において物流代行サービスを中心として増収となるものの、通販事業の春夏商材（4～5月）の受注が前年と比べ低調に推移したことにより、全体としては減収となる。
- 経常利益は、減収による売上総利益の減少に加えて、販管費の増加により減益となる。

（単位：百万円）

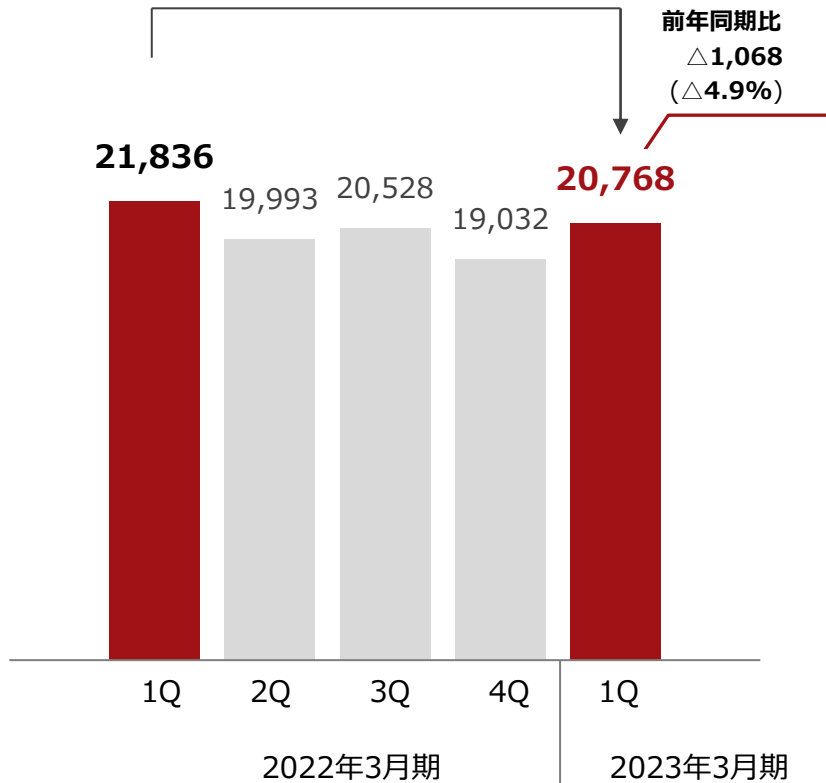
	2022年3月期 第1四半期 実績	2023年3月期 第1四半期 実績	増減額 対 前期実績	増減率 対 前期実績
売上高	21,836	20,768	△1,068	△4.9%
営業利益 (営業利益率)	2,954 (13.5%)	2,019 (9.7%)	△935	△31.7%
経常利益 (経常利益率)	2,979 (13.6%)	1,955 (9.4%)	△1,023	△34.4%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	2,009	1,324	△685	△34.1%
1株当たり四半期純利益	57.63円	37.98円	△19.65円	—

※ △は損失または減少を表します。以下、すべてのページにおいて同様に表記します。

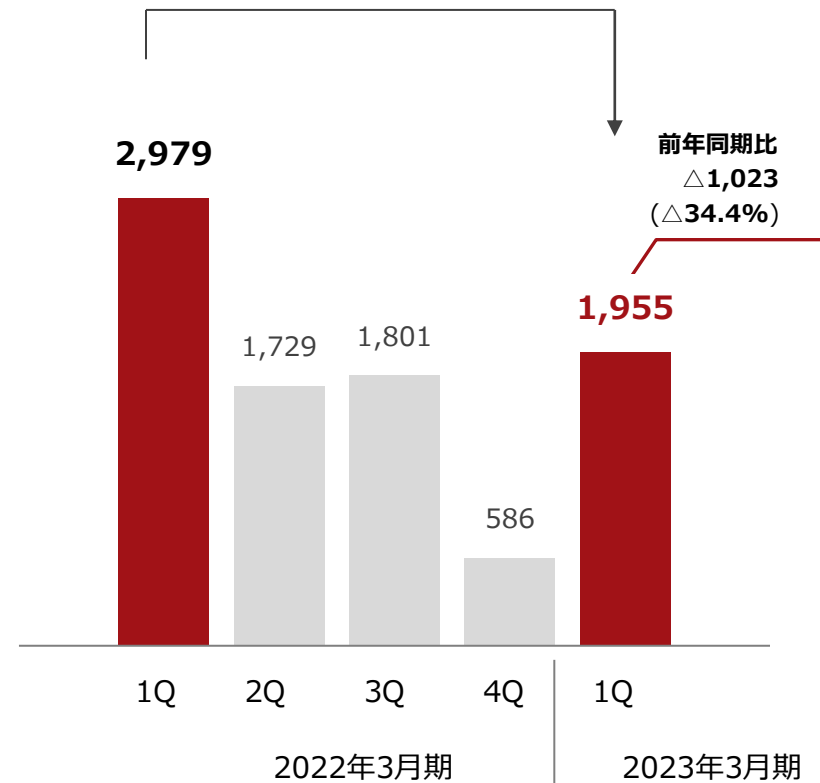
売上高・経常利益の推移【連結】

- 売上高は、通販事業の減収が連結全体に影響。
- 経常利益は、売上総利益の減少に加えて販管費の増加により減益。

売上高推移 (単位：百万円)

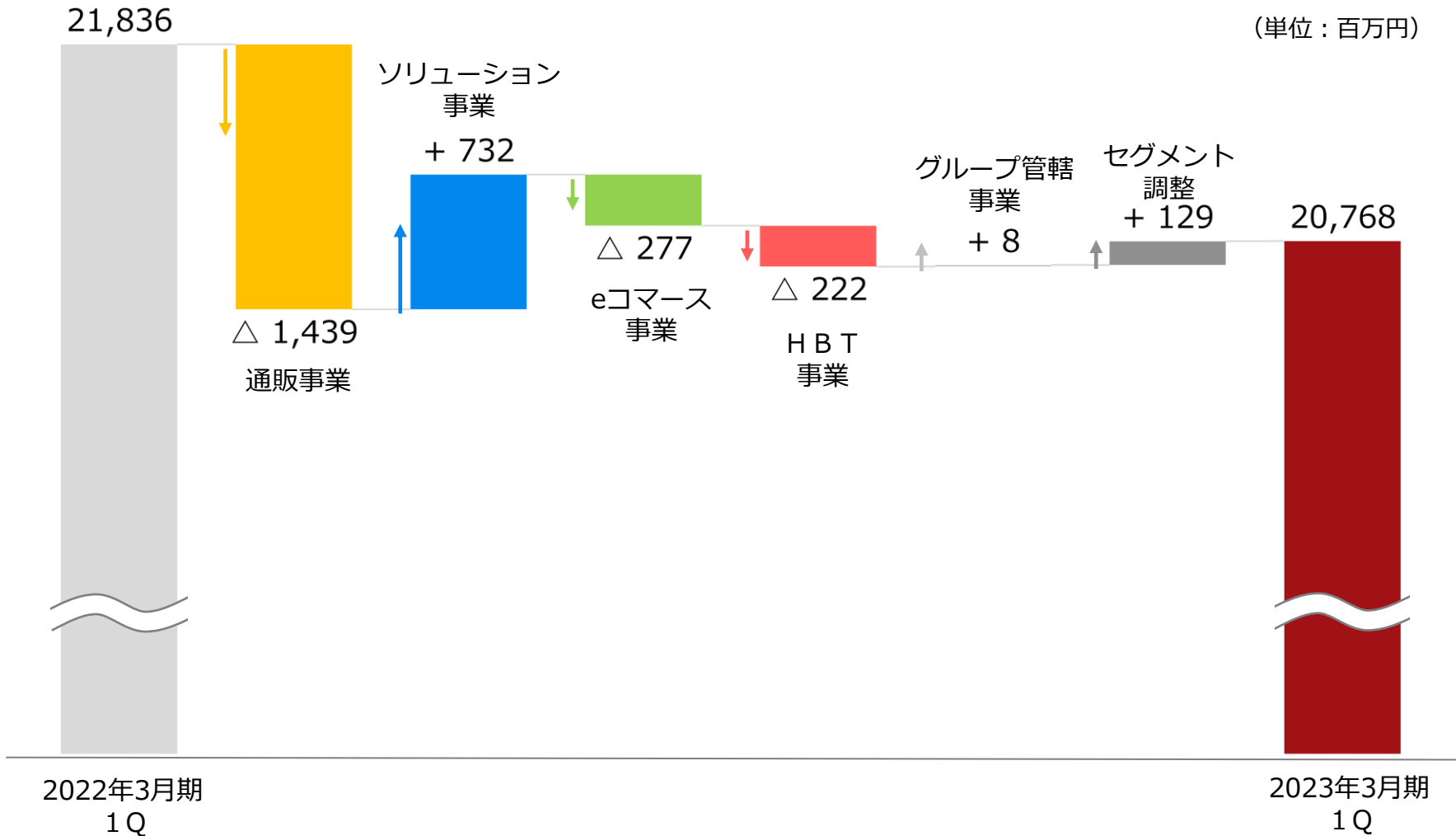


経常利益推移 (単位：百万円)



売上高の増減分析【連結】

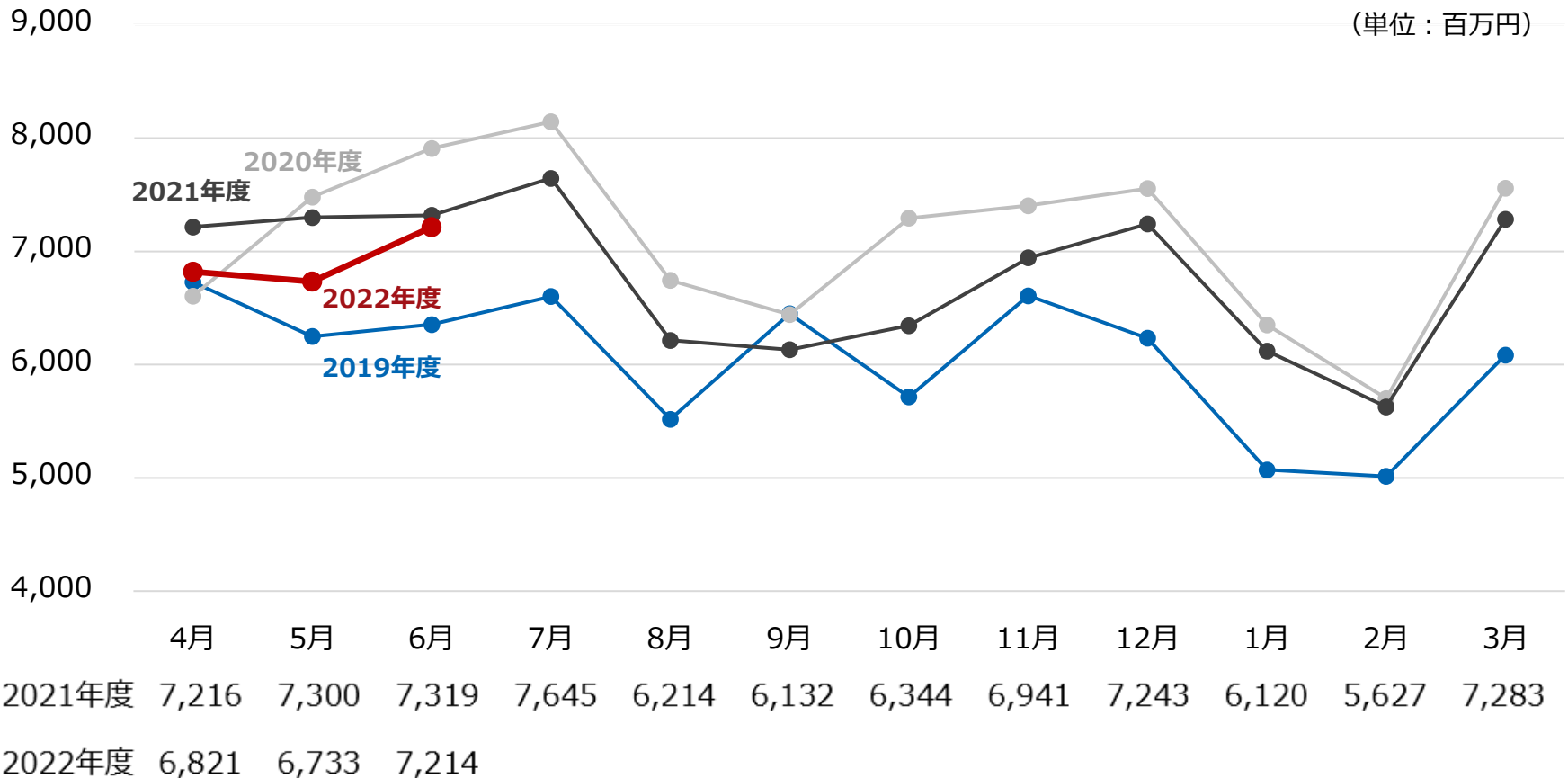
- 基幹事業である通販事業は、春夏商材（4～5月）が低調に推移し減収。
- 成長事業であるソリューション事業は、物流代行サービスの伸長を中心として増収。



※ 当第1四半期より報告セグメントの変更を行っております。

月次売上高の推移【連結】

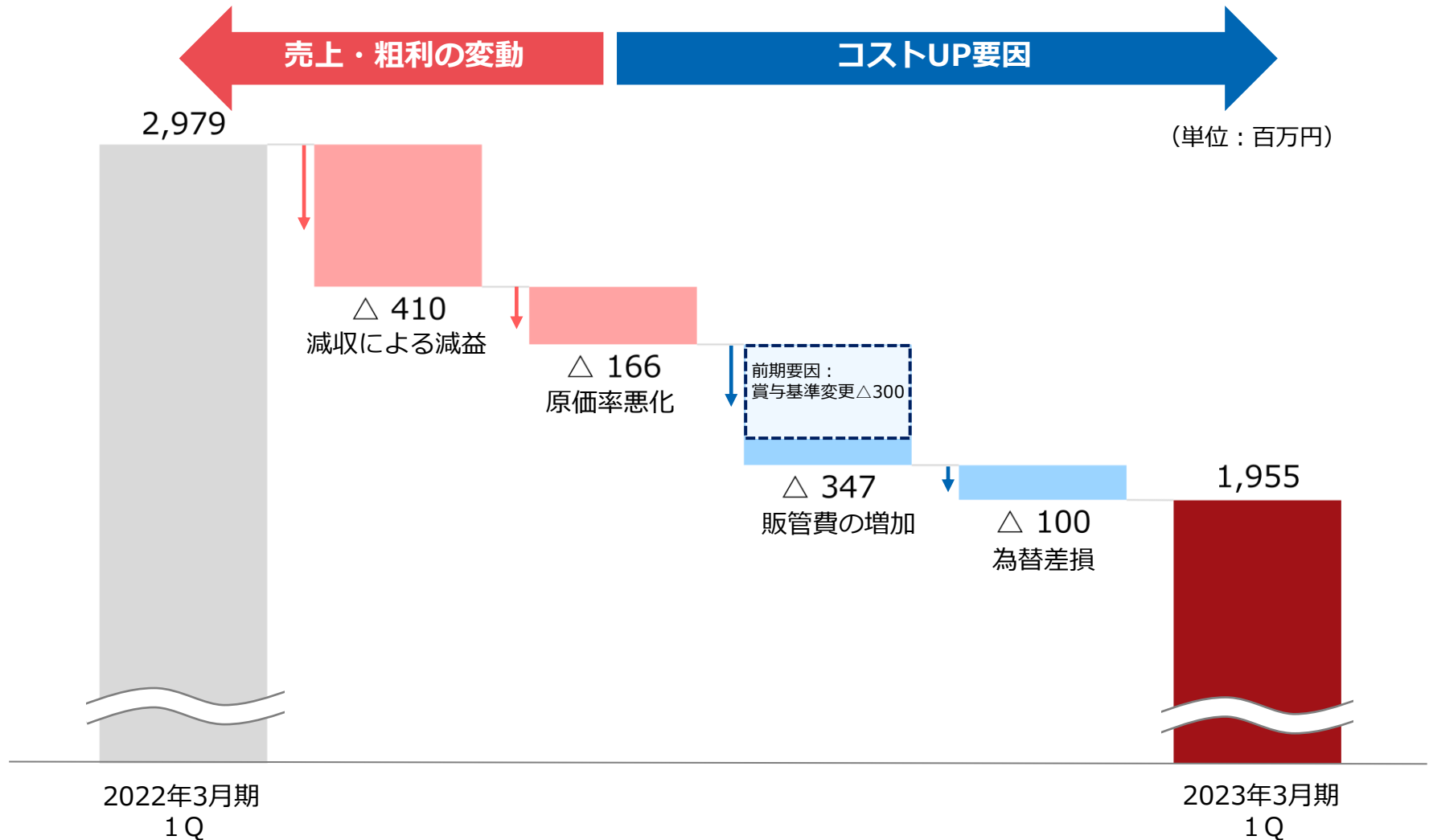
- 通販事業の春夏商材 (4~5月)は低調に推移するものの、真夏商材 (6月)は気温上昇等により、前年水準の受注となる。
- ソリューション事業の伸長もあり、コロナ禍前の2019年度対比では、売上はプラスで推移している。



※2019年度及び2020年度数値は、「収益認識に関する会計基準」等適用前の参考値にて表示しております。

経常利益の増減分析【連結】

- 減収による減益に加え、前期の特殊要因やコストUP要因が発生。



販売費及び一般管理費の推移【連結】

- 人件費及びその他経費の増加により、販管費及び一般管理費率が3.0 P 増加。

(単位：百万円)

	2022年3月期 第1四半期	2023年3月期 第1四半期	増減額	増減要因（概数）
運賃諸掛	418	392	△26	
広告宣伝費	2,654	2,648	△6	[-] 販促費△ 50百万円（週展開カタログ配布の効率化） [+] 販促費+ 50百万円（冊子カタログの増部）
人件費	988	1,203	+215	[+] 賞与関連+300百万（前期要因:基準変更）
その他経費	1,548	1,712	+164	[+] 支払手数料+ 100百万（収納代行増） [+] 貸倒引当金繰入+ 50百万（後払い決済）
販売費及び一般管理費 （販売費及び一般管理費率）	5,608 (25.7%)	5,956 (28.7%)	+347 (+3.0P)	

セグメント別業績

通販事業

減収減益 春夏商材の苦戦による影響

売上高：	10,836百万円	(△11.7%)
セグメント利益：	1,772百万円	(△30.6%)

ソリューション事業

増収増益 新規クライアントの稼働開始により堅調に推移

売上高：	5,123百万円	(+16.7%)
セグメント利益：	126百万円	(+17.5%)

eコマース事業

減収減益 市場環境が厳しさを増し苦戦

売上高：	5,089百万円	(△5.2%)
セグメント利益：	33百万円	(△78.1%)

HBT事業

減収減益 事業再編に伴い売上高が減少

売上高：	341百万円	(△39.4%)
セグメント利益：	△40百万円	(前年同期は72百万円)

グループ管轄事業

増収減益 物流原価の増加により減益

売上高：	859百万円	(+1.0%)
セグメント利益：	44百万円	(△55.8%)

※ ()内は前年同期比

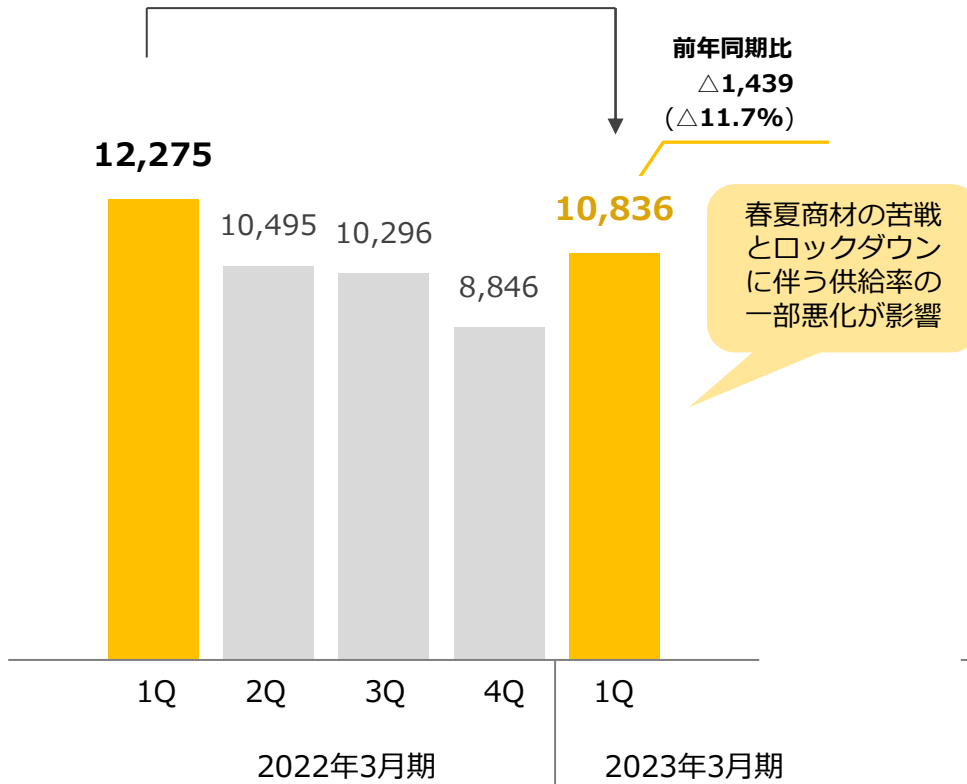
※ 当第1四半期より報告セグメントの変更を行っております。

通販事業セグメント

- 売上高、セグメント利益とも、前年同期比で減少するも、一定の利益率は維持。
 - ・春夏商材の苦戦に加え、上海のロックダウンによる物流混乱の影響を一部で受けたことにより、供給率が悪化し、減収。
 - ・売上総利益の減少に加え、前期の特殊要因（賞与基準変更）による販管費の増加により減益。

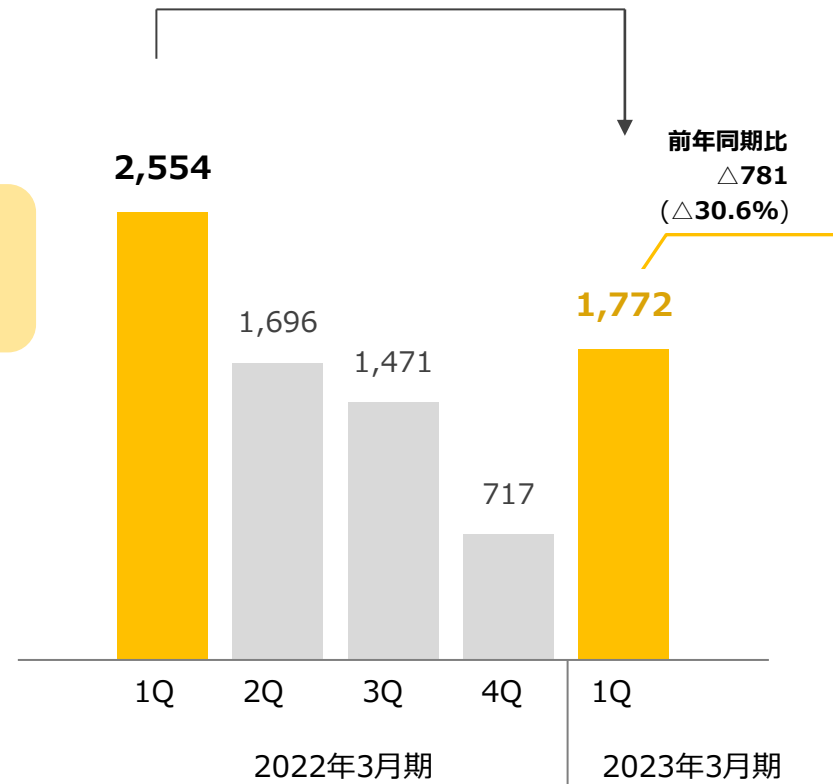
売上高推移

(単位：百万円)



セグメント利益推移

(単位：百万円)

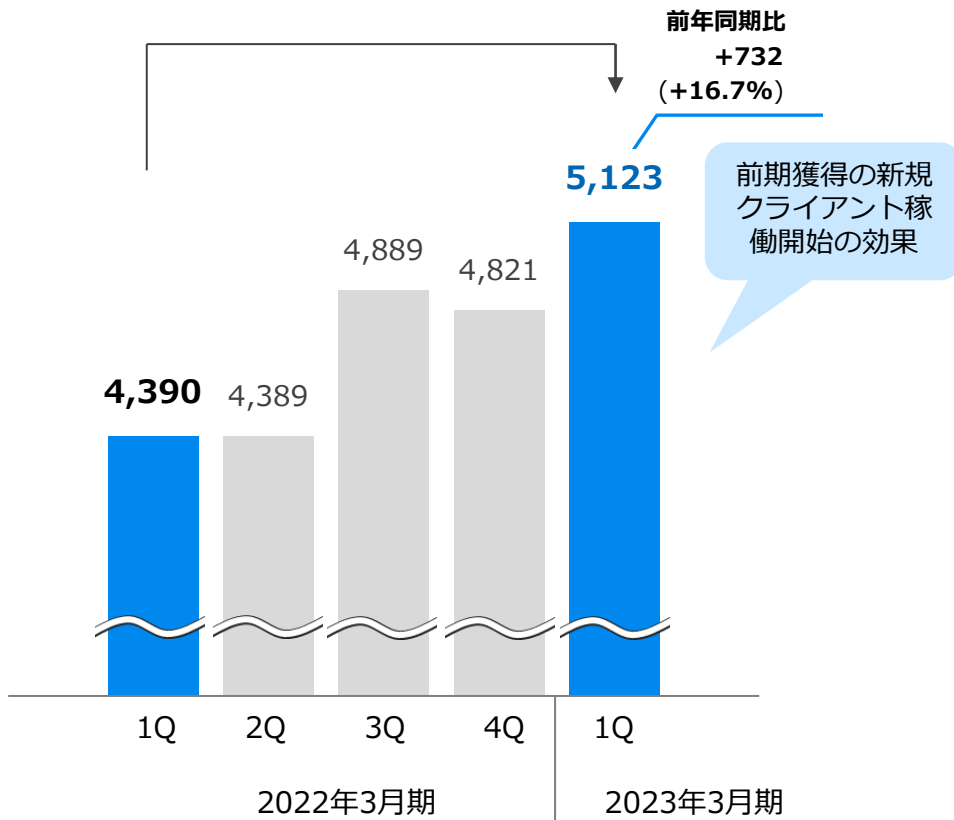


ソリューション事業セグメント

- グループの成長ドライバーとして、増収増益。
 - 新規クライアントの稼働開始により物流代行サービスが成長。
 - 決済代行サービス、マーケティングサポート事業は堅調に推移。

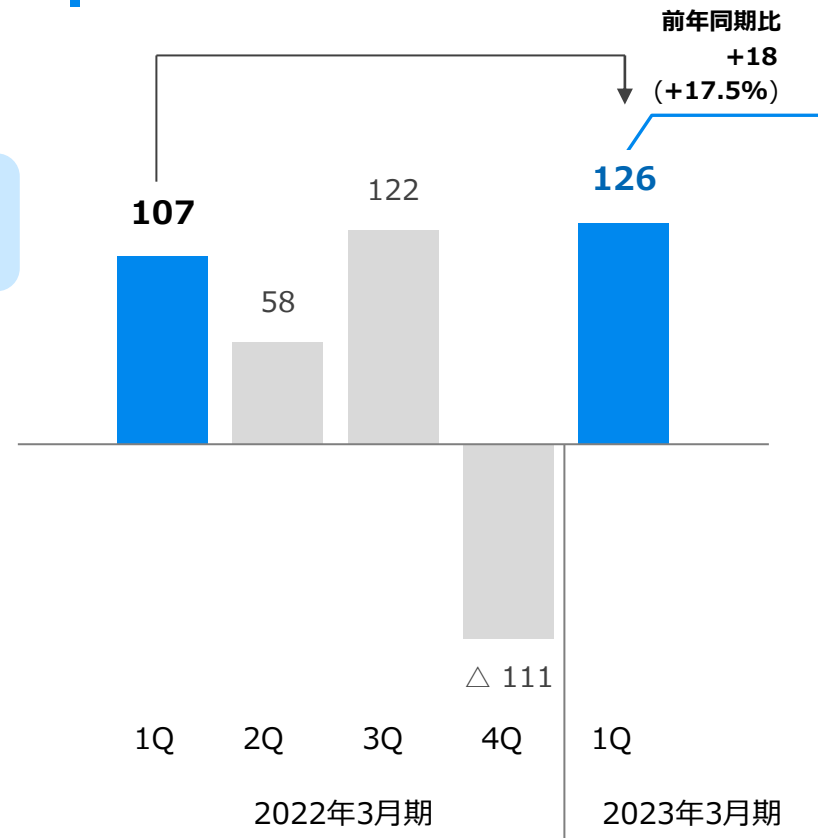
売上高推移

(単位：百万円)



セグメント利益推移

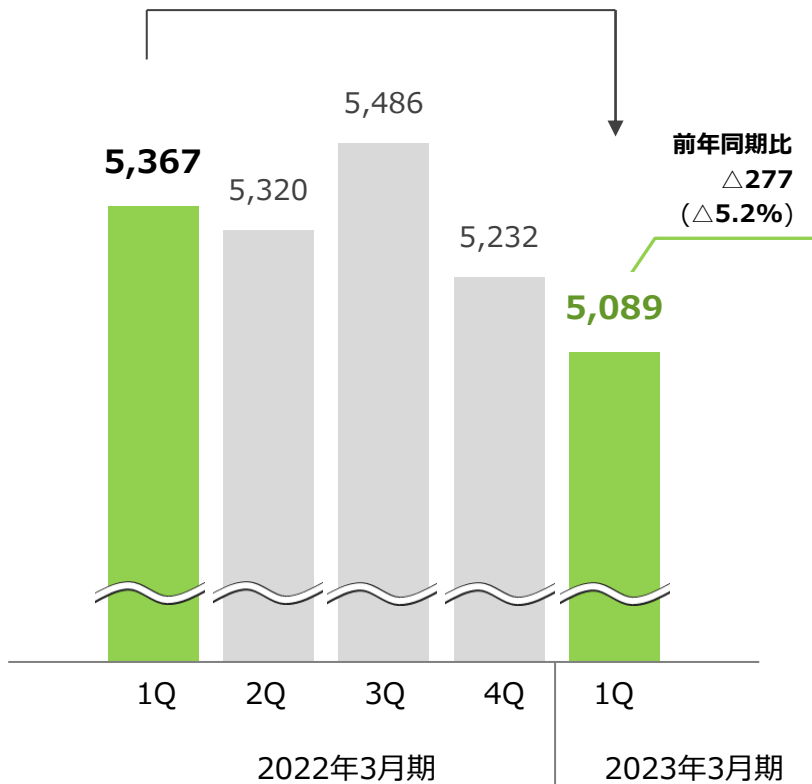
(単位：百万円)



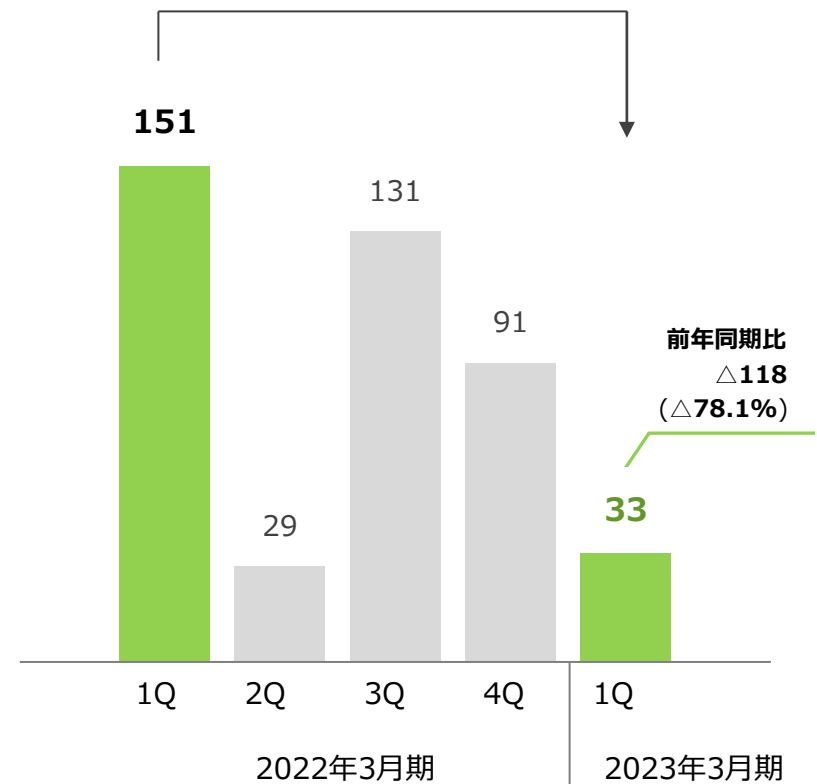
eコマース事業セグメント

- 市場競争の激化により苦戦。
 - ・オリジナル商品の開発や最適な商品調達ルートの開拓などに努めるものの、キャンプ・アウトドア商材は、業種・業態を越えた競争が厳しい傾向となる。
 - ・バッグ等のブランド商材についても、厳しい受注状況が続いている。

売上高推移 (単位：百万円)



セグメント利益推移 (単位：百万円)



貸借対照表の推移【連結】

- 純資産は配当金の支払い等により減少し、29,487百万円（自己資本比率59.5%）となる。

（単位：百万円）

	2022年3月期末	2023年3月期 第1四半期末	増減額	
				<主な増減項目>
流動資産	32,233	32,389	+155	現金及び預金 $\Delta 2,572$ 売掛金 +1,686 棚卸資産 +1,265
固定資産	17,477	17,211	$\Delta 266$	
資産合計	49,711	49,600	$\Delta 110$	
流動負債	12,051	12,470	+418	未払法人税等 +368 買掛金 +352 未払金 $\Delta 234$
固定負債	7,621	7,641	+20	
負債合計	19,673	20,112	+438	
純資産合計	30,037	29,487	$\Delta 549$	(利益剰余金) 配当金支払 $\Delta 1,900$ 四半期純利益 +1,324
負債純資産合計	49,711	49,600	$\Delta 110$	
自己資本比率	60.4%	59.5%	$\Delta 1.0P$	

2023年3月期 通期業績予想【連結】

- 前回（2022年5月10日）発表した通期業績予想数値に変更はございません。

(単位：百万円)

	2022年3月期 (実績)	2023年3月期 (予想)	増減額 対 前期実績	増減率 対 前期実績
売上高	81,391	84,000	+2,608	+3.2%
営業利益 (営業利益率)	7,000 (8.6%)	5,700 (6.8%)	△1,300	△18.6%
経常利益 (経常利益率)	7,096 (8.7%)	5,800 (6.9%)	△1,296	△18.3%
親会社株主に帰属する 当期純利益	5,585	4,000	△1,585	△28.4%
ROE (自己資本当期純利益率)	19.7%	13.0%	△6.7P	—

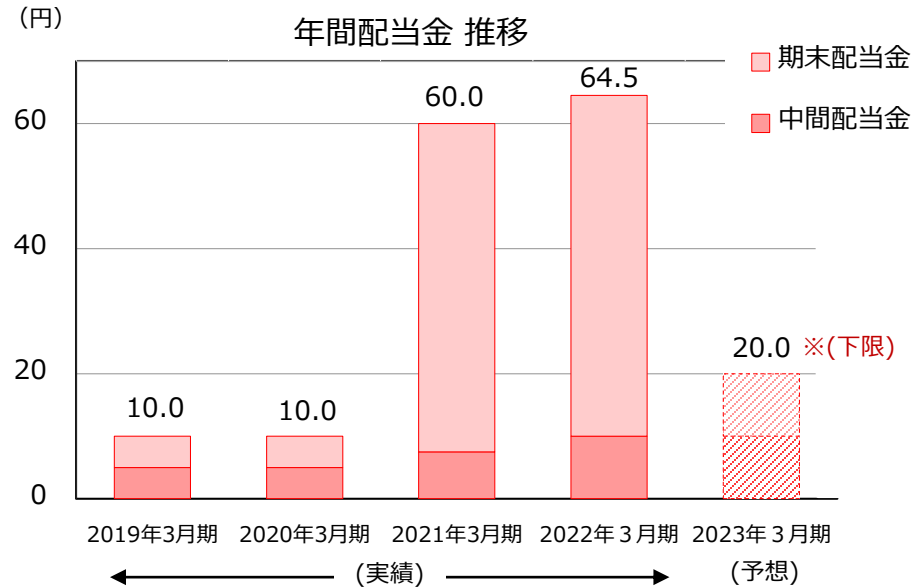
株主還元について

■基本方針

- ・ 当社は、株主の皆様への利益還元を、経営の最重要政策のひとつとして位置づけております。
- ・ 配当方針については、年間配当金20円を下限とし、連結配当性向40%を基本として実施してまいります。
- ・ 内部留保金は、企業間競争力の維持・強化を図るための、適切な投資などに活用してまいります。

■2023年3月期の1株当たりの配当金（下限）

中間配当金	10.0円
期末配当金	10.0円
年間配当金	20.0円



2023年3月期の配当予想については、配当基本方針のとおり実施してまいります。目下先行き不透明な経営環境でありますので、下限である年間配当金20円（中間配当金10円、期末配当金10円）での配当予想といたしますが、通期の業績を明確に見通せる段階になった時点で、改めて公表いたします。

なお、事業活動に直接の関わりのない不動産や有価証券の売却、及びその他の特殊要因により当期利益が大きく変動する事業年度については、その影響額を除外し、配当額を決定いたします。

中期経営計画・ESGへの取組み

Next Evolution 2024 ~To the Next Goal~

DMC複合通販企業の変容と進化

2022年度

2023-2024年度

二大重点方針

第二次DMC複合通販経営の推進

通販事業一本足経営からの脱却

- ・ 通販事業セグメントにおけるS V Bの売上拡大
- ・ ソリューション事業セグメントの収益拡大
- ・ eコマース事業セグメントの収益率向上

Responsibility経営の取組み強化

事業利益に貢献する取組み推進

- ・ 環境配慮、脱炭素社会への取組み (E/ 環境)
- ・ タスク・ダイバーシティ経営の推進 (S/社会)
- ・ コーポレート・ガバナンスの拡充 (G/ ガバナンス)

目標

DMCの第二次完成に向けた事業ポートフォリオの最適化

環境・社会目標達成に向けた取組みの推進

当社グループは、「社会から信頼される企業であること。」という社是のもと、人々の豊かな暮らしづくりをサポートしていきます。



・環境配慮、脱炭素社会への取組み

- ✓ 事業を通じた環境負荷低減への取組み
(紙・プラスチック素材の使用量削減、SDGs関連商品の拡充)
- ✓ CO₂排出量の削減 →詳しくはP.17で解説



・タスク・ダイバーシティ経営の推進

- ✓ はままつフラワーパークとの取組み →詳しくはP.18で解説
- ✓ 女性の活躍推進
(女性管理職目標比率の設定、管理職候補者向けの研修実施や制度の改善など)



・コーポレート・ガバナンスの拡充

- ✓ コーポレート・ガバナンスシステムの変更 →詳しくはP.19で解説
- ✓ 譲渡制限付株式報酬制度の導入

CO₂排出量の削減

- ・ 物流センターにおける太陽光発電システムの設置
- ・ CO₂フリー電力の購入（静岡Greenでんきの導入開始）
- ・ 空調冷却装置制御のインバーター化
- ・ LED照明への切り替え
- ・ スコープ2におけるCO₂排出量の削減目標設定

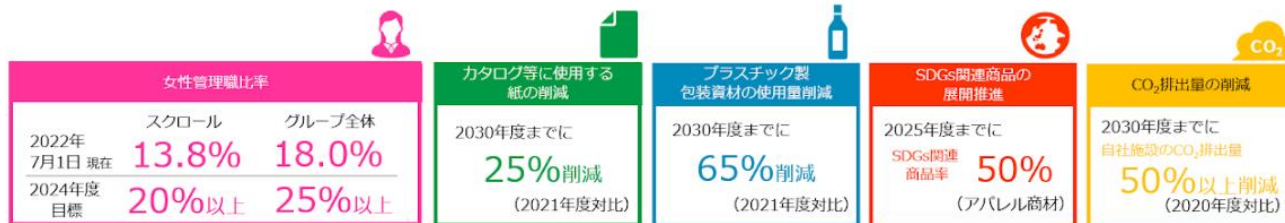
✓ サステナビリティ目標を社内ポータルサイトに掲載

2022年4月から、当社グループ社員が毎日閲覧する、社内ポータルサイトのトップページに「サステナビリティ目標」を掲載しています。毎日社員が目にする場所へ掲載をすることで、社員一人ひとりが目標達成を「自分ごと」として意識することを目指しています。



社内ポータルサイト

サステナビリティ目標



「静岡Greenでんき」の導入を開始



CO₂排出量の削減及び再生可能エネルギーのさらなる普及拡大、地産地消による地域経済の活性化に貢献するため、2022年4月より当社浜松本社ビルの購入電力に、中部電力ミライズ株式会社が提供する、静岡県産CO₂フリー電気「静岡Greenでんき」の導入を開始しました。

はままつフラワーパークとの取組み

浜松市に本社を置く当社は、地域の人々や社員とともに持続可能な社会をつくるため、「はままつフラワーパーク」の運営事業を行う「公益財団法人浜松市花みどり振興財団」（以下、花みどり振興財団）と、2022年3月に相互協力及び連携に関する協定を締結しました。

花みどり振興財団は、事業を通じ「持続可能な開発目標（SDGs）」に賛同し、持続可能な社会の実現に向けて貢献することを宣言しています。当社グループもそれに賛同し、はままつフラワーパーク内のボランティアスタッフが着用されるユニフォームの贈呈や、当社カタログに花みどり振興財団の理事長である塚本こなみ氏にご登場いただくなど、双方の経営資源を活用した取組みを行っております。



はままつフラワーパークで行われた協定書締結式の様子

社員による園内ボランティアを実施



2022年4月から6月までの土日祝日、はままつフラワーパーク園内にて、社員によるボランティア活動を実施しました。延べ70名が参加し、お花周りの雑草取りや、枯れた花摘みなどを行いました。

コーポレート・ガバナンスシステムの変更

①取締役の過半数を独立社外取締役へ

業務執行に対する取締役会のさらなる監督機能の強化を図るため、独立社外取締役比率 3分の1以上の体制から、取締役の過半数を独立社外取締役とした機関構成へと変更いたしました。



②新たに女性の独立社外取締役を選任

多様な取締役による活発な議論を通じて、客観性・実効性の高いガバナンスを実現させ、タスク・ダイバーシティ経営を推進してまいります。

取締役

社内 4名

社外 5名



代表取締役社長

グループオフィサー CEO兼COO

鶴見 知久



取締役副社長

グループオフィサー CSO

佐藤 浩明



取締役

グループオフィサー CMO

山崎 正之



取締役

グループオフィサー CAO

杉本 泰宣



社外取締役
(監査等委員)

社外取締役

村瀬 司



社外取締役
(監査等委員)

社外取締役

宮部 貴之



社外取締役
(監査等委員)

社外取締役

宮城 政憲



社外取締役
(監査等委員)

社外取締役

一杉 逸朗



社外取締役
(監査等委員)

社外取締役

小野 亜希子

スクロールコーポレートサイトのご案内

スクロールコーポレートサイトでは、
当社グループに関する最新情報をわかりやすく紹介しています。

5/31 公開

・スクロールグループ統合報告書 2022

幅広いステークホルダーの皆さまに対して、当社グループにおける経済的価値と社会的価値の実現による持続的成長ストーリーをお伝えすることを目的に、トップメッセージや、パーパス・ビジョン、事業戦略、環境・社会・ガバナンス等のサステナブルへの取組みなど、価値創造に向けた財務情報・非財務情報を統合的にまとめた報告書です。本報告書を通じて、当社グループの中長期的な企業価値の向上に向けた取組みをご理解いただければ幸いです。

■ 統合レポート

<https://www.scroll.jp/ir/annual/>

・TCFD提言に基づく情報開示

当社グループは、「環境負荷の低減」をマテリアリティと捉えており、気候変動がもたらす財務的な影響について、TCFD提言に沿ってシナリオ分析を開始いたしました。

■ 環境 TCFD

<https://www.scroll.jp/sustainability/environment/#tcfd>

【スクロールコーポレートサイト】
へのアクセスは[こちら](https://www.scroll.jp/)から！



<https://www.scroll.jp/>



スクロールグループ統合報告書 2022

会社概要・事業会社ご紹介

(2022年7月29日現在)

今日を、いい日に。



株式会社スクロール（Scroll Corporation）

- 本 社 : 静岡県浜松市中区佐藤二丁目24番1号
- 代表取締役社長 : 鶴見 知久
- 設 立 : 1943年（昭和18年）10月1日
- 資本金 : 6,024百万円（2022年6月30日現在）
- 従業員（連結） : 866名（2022年3月31日現在）
- 主な事業内容 : アパレル、雑貨、化粧品・健康食品・旅行等のEC・通販事業
およびE C・通販事業者へのソリューション事業
- 事業形態 : 連結19社によるDMC複合通販企業体

事業セグメントおよび事業概要

通販事業

主に生協宅配事業の組合員様向けに通信販売（カタログ・一部インターネット）を展開しています。



詩克樂商貿（上海）
有限公司

ソリューション 事業

EC・通販事業者を360度サポートする「ワンストップソリューションサービス」を提供しています。



株式会社キャッチボール



eコマース事業

主に自社サイトやショッピングモールを通じて、専門特化した商品カテゴリーのインターネット販売を行っています。

A X E S



株式会社ミヨシ

H B T 事業

お客様が心身ともに健康であるために、自然派・オーガニックにこだわった化粧品・健康食品のインターネット販売、また国内旅行企画の販売を行っています。



Anthropologie
北海道アンソロロジー株式会社

木 草
果 花



株式会社トラベックス ツアーズ

グループ管轄 事業

全国各拠点の物流センター運営、不動産の有効活用、また海外現地法人による商品生産管理などの機能を担っています。



SCROLL VIETNAM
CO.,LTD

お問合せ窓口

The logo for Scroll Corporation, featuring the word "scro" in a bold, red, sans-serif font, followed by a vertical red bar and the letter "l".

経営統括部 経営企画課

TEL : 053-464-1114 (直通)

FAX : 053-464-1309

E-mail : ir@mb.scroll.jp

ホームページアドレス

<https://www.scroll.jp/>

■ 将来見通しに関する注意事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。実際の業績等は、今後様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。